

テーマ 「40年を振り返る

滋賀ならではの福祉の価値・それを生み出す現場力』

滋賀県には、実践のなかから生まれ、制度化された「滋賀ならではの先駆的な事業」が数々あります。

今回は、その事業が制度化されるまでにどのようなエピソードがあったのか、実施しようとしたきっかけや動機、また、制度化に向けた関係者等への呼びかけや働きかけなど、実践者の現場力から生み出される「福祉の価値」について共有し、誰もが暮らしやすい未来の福祉実践の創造へとつなげる場として開催します。

シンポジスト

角野 晃子さん

社会福祉法人グロー(GLOW) オープンスペースレガートエリア総合施設長

大学時代、障害者支援に興味を持ち、滋賀県甲賀郡(現:甲賀市・湖南市)で芽吹き始めた「レスパイトサービス」の事業所で実習。障害者やその家族を中心に置き、自分たちで「考え組み立てて行動する」ことに魅了され、そのまま卒業と同時に就職。平成13年、新法人設立に参画し利用者支援のブレーンとなる。平成17年、老人デイサービス事業の新規立ち上げと同時に管理者となり、高齢者福祉に新しい風を吹かせようと試行錯誤を始め、現在も奮闘中。



辻 亨さん

社会福祉法人さざなみ学園 園長

昭和57年4月 社会福祉法人さざなみ学園(虚弱児施設)に入職。
平成10年4月 虚弱児施設から情緒障害児短期治療施設に施設役割が変更となり、被虐待児・発達障がい児などの治療的支援に携わる。
平成15年4月 同園施設長に就任。
平成23年 厚生労働省の社会的養護検討委員、情短施設運営指針ワーキング委員、第三者評価基準の策定委員をそれぞれ2年間経験する。
平成27年4月 (社福)大阪水上隣保館 山崎保育園で園長に就任。
令和2年4月 さざなみ学園に戻り施設長に就任。現在に至る。
(令和2年3月 社会福祉法人かすみ会理事長就任)
※情緒障害児短期治療施設は平成29年4月 児童心理治療施設に名称変更。



野々村 光子さん

社会福祉法人わたむきの里福祉会

東近江圏域働き・暮らし応援センター“Tekito-”センター長

幼い頃から、母親が働く共同作業所の仲間が自宅に出入りするという環境で育つ。大学卒業後、精神障害者通所授産施設での支援を経て、精神保健福祉士を取得。京都障害者職業相談室にて精神障害者の就労支援に関わる。平成18年より現在のセンター業務に就く。色んな「働きたい」が実現する地域を目指し、「人・モノ・金・愛」が回る仕組みを発信中。



コーディネーター

渡邊 光春

社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会 会長

昭和49年 滋賀県庁入庁
平成15年 滋賀県社会福祉協議会 事務局長(滋賀県より出向)
平成16年 滋賀県健康福祉部レイカディア推進課長、障害福祉課長、子ども青少年局長を歴任
平成21年 滋賀県社会福祉事業団 副理事長(滋賀県より出向)
平成23年 滋賀県健康福祉部長
平成25年 滋賀県庁退職
滋賀県社会福祉協議会会長

